

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット共通/1階2階3階ユニット)

事業所番号	2791700079		
法人名	株式会社 フレンド		
事業所名	グループホーム フレンド 筆ヶ崎		
所在地	大阪市天王寺区筆ヶ崎町3番20号		
自己評価作成日	令和5年8月25日	評価結果市町村受理日	令和5年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGBビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は鶴橋駅から徒歩近く、ご家族様の面会がしやすい場所にあります。新型コロナウイルスの影響もあり、思うように外出できておりませんが、感染対策をした上で近くのコンビニや散歩には入居者様と一緒に行く事ができるようになりました。施設内ではたこ焼き等の食事のレクリエーションやカラオケ等をし、皆様と職員も一緒に楽しめる行事に力を入れ実施しています。これからはボランティアの方々にも施設に来所して頂き、交流をしていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「株式会社 フレンド」が事業母体であり、府内6ヶ所の中の一つ鶴橋駅に近く、日赤病院、飲食店、近隣に保育園がある。殆どが商業地のビルが立ち並び、道路を隔て見上げると近鉄電車が走っている。平成26年1月1日に開設され今年で12年目となる。ここ3年余り、新型コロナで様々な制限を強いられ、事業所の中での生活が止む無い暮らしであった。、室内でのレクリエーション・おやつレクなど楽しみ事を増やすよう取り組んできたが、感染状況5類となり面会・外出・買い物・散歩を再開した。事業所は外国籍職員を採用し職員間コミュニケーションは良好である。法人制定のマニュアル、手順書など活用し年間計画で研修・勉強会を行い介護の質向上に取り組んでいる。認知症ケアの充実に、職員研修、地域交流を実現して「三大介護に目が向くが介護の心を育てたい」と認知症ケア専門士の資格を持つ管理者は意欲的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、3ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく、尊厳のある生活を實現してもらおう。を理念としています。ミーティングなどで話し合い、実践できるように取り組んでおります。	法人理念を玄関と事務所に、事業所の理念を玄関に掲示し実践に繋げるようにしている。事業所の理念は毎年変更し年度初めに皆で考えるようにしている。理念が浸透するように、各フロアに掲示して、会議や話し合いの機会があれば話し合い実践に繋げるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じ、地域のイベント等の情報交換を行っている。	地域の情報は主に町会長や民生委員から情報収集している。自治会は地域には無く、今期から町会に入会する予定で申し込んでいる。鶴橋公園で町会のイベントがあり、冬季はクリスマス会などやイルミネーション点灯がある。食事会などもあり参加して地域交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での取り組みや、イベントの開催報告など運営推進会議を通じて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報交換を頂きながら、地域包括職員様にも参加頂き、意見を述べて頂いている。新型コロナウイルス感染防止対策の為、書面開催を実施することもある。	運営推進会議は偶数月と定例化しているが、感染状況過では書面会議を行ってきた。包括支援センターに依頼し管理者が交代となり民生委員、町会長を紹介してもらい推進会議メンバーと6月から対面で会議を行っている。議事録は事業所玄関口にファイルで開示し家族、メンバーに送付している。	運営推進会議の目的である地域に密着して事業所の活動を公開し明らかにすることで、助言や地域との交流促進が図られ、話し合いを通じて、そのことが事業所のサービス向上に活かされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公費の方が多いため、担当ケースワーカーさんと話す機会が多く、色々と支援にかかわるアドバイスを積極的に頂いている。	介護保険課は介護保険の更新などの手続き、生活支援課は担当ケースワーカーと報告相談し医療券は病院に送付されている。大阪府ホームページを活用し、市から防護服・N95マスク・パルスオキシメーターの支給を受け、コロナ等の感染予防対策に対応している。関係者と相談報告など行い協力関係を築くようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない為に、研修の中に取り込んだり、また身体拘束適正会議を定期的実施している。	「身体拘束適正化指針」があり運営推進会議と並行して2か月毎に行っている。毎回議事録をとり、出席できなかった職員に各自確認の捺印を貰っている。会議には資料を用いての勉強会を行っている。フレンド事務局作成の資料を活用し年2回以上の研修会を行っている。玄関は道路に面しているため常に施錠しているが、一階事務所窓から人の往来が見え利用者も職員と一緒に外に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、新人研修や、コンプライアンス研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人と職員との話し合いをもうけ、支援を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度、ご家族様とご利用様の相談援助を実施している。担当者会議の時にも確認など行うようにしている。	利用者の状態の電話報告や最近再開した面会後はその都度意見を聴き、「外出可能なら早く知らせてほしい」、「よく報告してくれて掃除も行き届いている」など、管理者は理解している。アンケートにも反映されていた。奇数月に利用者家族・後継りにフレンド本社からアンケートはがきを送っていて意見・要望を聴くシステムがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎に会議を開催し、意見陳述が行える機会を設けている。個別でヒヤリングなどの時にも意見を聞いたりしている。	コロナ過では外出できなかった為、利用者とのコミュニケーションを密にとり意向を聴いている。職員会議で嚙下状態困難者に対し歯科衛生士やSTの専門的な指導が受けたいと希望あり、必要な利用者の家族と個別に面談し4人ほど専門歯科医を変更している。感染状況5類になって以降は本社と相談家族の意見を聴き外出について検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修等を実施したり、教育支援制度を利用し、資格取得したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質を向上させるため、法人内の他事業所で起きた事故が起きた際の対策方法などを共有し、法人として同じ対策が取れるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どうしても緊張されるので、安心してお話できる環境作りをしてから、困っていることや、していきたいことなどを確認をしより良い関係を作れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回見学時に、入所を考えられるきっかけを確認しながら、またニーズを聞き支援できることなどを伝える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、面談時に、お話しし、ご家族にもニーズや出来ていることや出来ない事を確認し、ご本人の生活歴なども確認して対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事をして頂き、できない事も支援しながら少しでもご自分の力を出せるよう支援している。また、ご利用者様同士が協力できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のご要望を聞きながら、ご家族にも情報を頂き、協力をお願いしながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人と定期的に電話でお話をされている方もいらっしゃるし、また、家族に写真などを持って来て頂いたり、支援に努めている。	友人から月1回電話が定期的に取り次ぎし、自分で携帯電話持参の利用者は1名居る。手紙や葉書誕生日カードが届く利用者もあり、返信を手伝う時もある。馴染みの美容室など現在は来所して理美容を受けてもらっている。最近家族や職員と馴染みの店に個別に買い物等に出かけるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が気が合う方の近くに席を作ったり、間に職員が入り、場を盛り上げたりしながら、関わりあえるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の他、日常の中でコミュニケーションをとりながら思いをくみ取り、ご家族様と一緒に相談させて頂きながら一人一人のらしさを把握できるようにしている。	家族に元気だった頃の自宅での生活の様子を聴いて参考にし、職員と情報共有している。利用者自ら希望や要望が伝えられる場合はよく会話して希望に添っている。日常生活の介護度の高い利用者の希望などは、日常ケアの場で毎日の顔色・表情・しぐさをよく観察し変化に気付き対応するよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の他、以前のケアマネージャーやご友人に聞いたりし、入居されてからコミュニケーションの中でも、お話が引き出せるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で担当者会議で多職種が集うことができないが、来訪時にそれぞれの立場からのご意見を伺い、ご家族様とも電話で意見交換をしている。	介護計画目標期間は長期1年、短期6ヶ月・3ヶ月など、新入居の場合は状況・状態により暫定期間を設け1～3ヶ月、6か月、安定すれば1年間としている。利用者の状況、状態変化時は各関係者とサービス担当者会議を開催、家族には面会時や電話で状態を報告し希望・意向を聴き、介護計画案を家族に説明し了承を得て介護計画書を再交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのほかに介護方法を詳細に示した手順書を作成し統一したケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要物品はご家族様にお願いをしているが、都合のつかない方の代わりに買い物、通院支援をすることもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	主治医と連携し、常に連絡を取るよう努めている。	入居時に利用者・家族の同意を得て利用者全員が協力医院の内科(月2回)歯科は(月4回)訪問診療を受けている。精神科は月に1回3人が診療を受け眼科は家族同行で受診している。週1回の訪問看護師により健康チェックある。24時間オンコール体制をとり適切な医療・健康管理を取り合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	相談員と連絡を密にとり、退院時にはできるだけ早く元の生活に戻れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り指針の説明のほか、重度化した時にはご家族様に連絡を取り、ご本人の意向とともに十分に話し合い、看取り支援を行っている。	入居時に「重度化対応指針・看取り対応指針」文書を説明し同意書を交わしている。重度化や看取りに関するマニュアル対応や手順書が整備され年1回看取り研修を行っている。重度化時には医師・管理者・家族から取り組み内容や意見・要望を聞き話し合い再度同意書を交わしている。直近では一人の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、昼間想定 of 消防避難訓練を実施している。	年2回の訓練は、日中、夜間想定と消火活避難訓練を行っている。今年3月の訓練には6名の参加があった。緊急連絡網を整備し、実際に連絡網を使った訓練を実施したが、メッセージに文字入力が難しいことが分かり、災害アプリの絵文字を使うことで早く送信することができた。備蓄は、水・非常食(流動食)を準備している。地域との協力体制は、これから自治体などへ協力を呼びかけて推し進めたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルを利用し研修をしている。	プライバシー確保・接遇のマニュアルが整備され、年1回、全員参加で研修会を実施している。入浴は同性介助で支援し、着替えの順番も利用者の希望に添って支援している。不適切な言葉の対応時は直属の上司からのアドバイスや面談があり職員全体で話し合っている。個人情報書類の管理は鍵付きのロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとり、日常的に思いを引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事などご本人様のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を一緒に選んだり、髪型をアレンジしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事、イベント前後の準備、後片付けなどをして頂いている。	食材業者による献立で、調理されたレトルト食品を湯煎で温め、ご飯とみそ汁は職員が準備している。朝食にパンを希望する利用者には対応している。毎月のイベント食ではお好み焼き、ソーメン・たこ焼きを誕生日にはスポンジを焼いてクリームやフルーツを載せて誕生日ケーキをつくっている。コロナ禍のため外食は難しかった。家族からの誘いで法事に出席した折に外食を楽しんだ利用者がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の助言の元、飲水量、飲食量を個別に設定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の毎月の指導のもと実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを考えながら支援している。	排泄パターンのチェック表を参考に、日中はトイレでの排泄支援に努めて身体機能の向上と安定を図っている。27名中12人が自立し夜間時は2時間毎の巡回としているが、パット・おむつ交換は個々の状態・パターンに沿って合わせ睡眠を妨げないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物も気をつけたり・ホットパットをし、腹部を温めたり、運動を促したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様のペースや体調に合わせて臨機応変に対応している。	週2回の午前中の中の入浴を基本としている。浴槽は3方向介助ができるようになっている。重度の利用者は温浴シャワーを設置しているので車椅子からは座ったまま移動でき体を温めることができる。入浴後個別に保湿剤を使用し、好みの化粧水や乳液などでスキンケアに努めている。また入浴剤を利用して香りや色を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使っていた布団の持ち込みによる安心感を大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師のご指導のもと、薬情を確認しながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様からの意向を常に確認をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	努めている。	コロナ禍での外出自粛が続いて、密を避けて近くの公園やコンビニに出掛け、外気浴や五感刺激で気分転換を図っている。天気の良い日はベランダデッキでティータイムを楽しむことがある。	コロナ収束後は、馴染みの場所やお花見や紅葉見物・海遊館などの遠出や買物や外食に出掛け、一人ひとりの希望に添った外出支援ができるように期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	イベントの写真や季節に合った飾りつけをしている。	共有空間を1日3回消毒して空機清浄機を設置している。廊下は広くテレビ・カラオケセットがあり壁面には職員と利用者が一緒に造ったお月見やアニメのキャラクター・海の生き物などの貼り絵を飾り、季節感があり落ち着いた共用空間をつくっている。清掃は職員がして清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、馴染みのあるタンスやお仏壇などをご持参頂いている。	居室にはベッド・カーテン・エアコンが設置されている。入り口の表札は折り紙を折り中に名前が書かれている。これまでに使い慣れたタンス・テーブルと椅子・仏壇などを持ち込み、その人らしく過ごしやすい居室となっている。テレビなど滑り止めマットを使用して転倒防止に努めている。清掃は職員がして清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具を使用しながら、安全に暮らしていけるよう工夫している。		